

## 活用ナビ

①【ねらい】江戸時代はじめての外国との交流の変化についてわかる。

②● 題と記号を確認しましょう。

● 日本町とは何でしょうか。

※教科書を読みながら、確認していく。貿易の意味がわからない児童がいることも考えられるので簡単に説明する。

③● 日本と東アジアとの貿易の様子を読み取りましょう。日本町と主な貿易港を丸で囲みましょう。

● 地図から気づいたことを書きましょう。

※貿易が遠くの地まで行われているぐらい盛んだったことをおさえる。

③● 外国との交流がさかんになることによって、どのようなことが起きたでしょう。

※貿易以外にキリスト教の影響が大きくなったことに気づかせる。

④● 鎖国になるまでの様子について、教科書の資料から読み取りましょう。

※地図Aで、一揆が起きた島原や天草が九州にあることを確認する。

※その後の貿易の相手国と貿易港の変化をおさえる。

⑤● 外国との交流の変化について、ノートにまとめましょう。

6年-13

## 2-6 幕府の政治と人々の暮らし 鎖国への道

P144～P145

名前

6年 組 番

①【ねらい】江戸時代はじめての外国との交流の変化についてわかる。

②【基本】地図Aを確認しよう。

- ・題と記号を確認しよう。
- ・日本町とは何だろうか。

日本人の商人が東南アジアに出かけ、各地に移り住んできた町



③【ポイント】日本と東アジアとの貿易の様子を読み取ろう

- ・日本町と主な貿易港を丸で囲もう。
- ・地図から気づいたことを書こう。

・日本町はシャムとルソンにある。1ヶ所だけではなく、何ヶ所もある。

・貿易港は中国から東南アジアの島々まである。貿易船も遠くまで出ている。

・日本から商人が東南アジアの各地に移り住んで、貿易や交流をしていたことが、この地図からわかる。

・日本は九州から貿易船が出ていた。

・外国との交流がさかんになることによって、どのようなことが起きただろうか。

・外国とのつながりが深まり、外国のものや文化が入ってきたと思う。

・宣教師たちの活動によって、キリスト教の信者が増えてきた。

・幕府はキリスト教を禁止し、海外との交流も禁止した。

④鎖国になるまでの様子について、教科書の資料から読み取ろう。

⑤外国との交流の変化について、ノートにまとめよう。

## 資料の読解

江戸時代の初めの頃、徳川家康は東南アジアとの貿易を盛んに行った。いわゆる朱印船貿易である。この資料<sup>ア</sup>は、その貿易の様子がわかるものである。

鎖国政策がとられる前まで、日本の御朱印船は、現在の台湾、中国、フィリピン、ベトナム、カンボジア、タイなどとの貿易を行っていた。タイのアユタヤなどに人口千人以上の日本町を作り、拠点とした。

この資料から、東南アジアの各地に主な貿易港があること、中でもシヤムやルソンには日本町が作られるほど、日本人が移り住んだこと、日本は九州から貿易船が出ていたことがわかる。子どもたちは、江戸時代当時に東南アジアまで交流があったことに驚くであろう。

このように外国との交流が盛んになることで、キリスト教宣教師の活動や南蛮文化も長崎を中心にして広がっていった。その後の鎖国への歩みを理解するうえで、なぜ日本にキリスト教の信者が増えたか考えるものになる資料でもある。



ア 日本と東アジア各地との貿易

## 読解の方法

- (1) 最初に題と地図の記号について確認する。「日本町」は教科書に説明はあるので、実際に読んでおさえるようにする。
- (2) 続いて、地図を読み取らせる。すぐに気づいたことを考えさせるのではなく、記号のあるところを丸で囲ませ、多くの貿易港があること、日本町も日本から遠い地にあることを実感させたい。そのうえで、貿易船の航路が九州を起点に東南アジアの各地に向かっていることに気づかせたい。そのことは、江戸時代の鎖国前までは、貿易が盛んだったことを意味していることを理解させる。
- (3) 外国との交流が盛んになることは、文化の交流も盛んになることである。その内容も教科書等から気づかせ、鎖国までの経緯について理解を深めるようにする。